

令和4年度 生石保育園事業報告

1. 概要

①運営方針

- 0歳児の受け入れが始まることを積極的に広報した結果、入園申込者数も増加し年間を通じて安定した入所率を保っています。子育て支援は、利用制限等の影響を受け利用人数は横ばいでしたが、職員が手形アートの資格を取得するなど、コロナ禍の収束を見据えて取り組みました。
- 0歳児保育を始めるにあたり、本部での学びを自園に落とし込んで保育を展開しました。ハード面でも、松山市が0歳児を受け入れる施設としてオムツ交換台や沐浴台の設置などを行い、環境も整ってきました。新規に建ったプレハブ園舎の1歳児クラスについても、一日の保育の流れが定着してきており、落ち着いて過ごすことができています。
- 第三者評価は2月末に受審しました。評価項目に基づき勉強を行いました。職員の理解には差異がありました。
- 人材確保は、県外や市内のフェアに参加したりラインを開設したりしたものの効果はあまり得られませんでした。1枠は自薦の新卒の採用をできましたが、もう1枠は紹介会社の利用となりました。養成校との連携も、コロナの影響で1年次の観察実習が中止となりました。
- 昨夏にホームページをリニューアルしました。見学者のほとんどがホームページを閲覧しておりメールでの問い合わせも増加したことから、一定程度の効果は得られました。

②定員 90名+24名 合計114名 (入園率126%)

③事業日数 295日 (うち休日保育 67日実施)

④開園時間 平日 7:00 ~ 20:00
土曜日 7:00 ~ 20:00
休日 8:00 ~ 18:00

⑤保育時間 早朝保育 7:00 ~ 8:30
通常保育 8:30 ~ 18:00 【標準時間認定】
8:30 ~ 16:30 【短時間認定】
延長保育 18:00 ~ 20:00

⑥職員数

園長1名、主任保育士1名、保育士26名 (うちパート職員10名)
保育補助1名、アルバイト学生1名、調理員6名 (うちパート調理員4名)
パート用務員1名 (障がい者雇用)、嘱託医 (内科・歯科) 各1名 (各年2回健診)

2. 保育運営

①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で、成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②保育方針

- 社会福祉法人白鳩会メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し、人として『生きる力』を育む。
- 在園児および地域の子育て支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

③保育目標

- 乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

④クラス体制

0歳児 いちご組	10名	保育士 3名
1歳児 もも組	17名	保育士 4名
2歳児 ぶどう組	20名	保育士 3名
3歳児 みかん組	22名	保育士 2名
4歳児 りんご組	20名	保育士 2名（うち障がい児加配 1名）
5歳児 めろん組	25名	保育士 2名（うち障がい児加配 1名）
合計園児数	114名	保育士16名
主任保育士		1名
フリー保育士		2名
子育て支援担当保育士		1名（パートタイム保育士）
延長・休日保育担当保育士		4名（パートタイム保育士）
加配保育士		2名
療育加配		1名（パートタイム保育士）

⑤保育内容

- 0～2歳児クラスは担当制の保育を行う中で、応答的に関わり子どもが安心して生活できるように取り組みましたが、必要以上に保育士が話しかけたり手を引いたりする保育士主導の場面が見られました。その都度、子どもの発信を待つことを具体的に現場で伝えていきました。
- 1歳児クラスのプレハブ園舎での生活も定着し、落ち着いて過ごせるようになりました。
- 子どもたちは、落ち着いて過ごすことはできているものの、保育士に確認しないと行動できない子どもや、必要以上に手を借りたがる子どもがいます。乳児期からのかかわりも影響しているこ

とが考えられました。指導的にならずに見守り、子どもが必要としている時に関わるようにして子どもの肯定感や自立心を高められるように取り組みました。

- リトミックは週1回行い、即時反応を身につけ、集中力やリズムに合わせて歩く、走る、跳ぶなどの基本的な動作を身につけるように取り組みました。
- 石井式漢字教育では、副主任を中心に職員のロールプレイを行い、指導に差異が生じないように取り組みました。
- 「朝の意味ある運動」は毎朝行い、身体発達の向上とともに前日の脳内のストレスを発散させ、落ち着いて活動に取り組めるようにしました。体力低下などの課題も見られたため、神社の階段の駆け上がりの回数なども見直して取り組みました。各年齢に応じた運動あそびや集団遊びを契約する運動あそび専門のサイトを参考に毎月展開しました。
- 音楽遊びは、4月から6月まではコロナの影響を受け実施が難しかったものの、各クラスが講師と計画を見直し、器楽や歌唱を楽しみながら経験することができました。
- 専門講師による造形あそびを年間4回実施しました。カルタづくりや船づくりなど、保育現場でも行うような活動を、造形の視点からねらいを持つことの大切さや導入の方法などを講師から学びました。
- 食育活動として野菜の栽培やクッキング活動を行いました。様々な野菜を園庭で育てることで子どもたちは興味深く観察や世話を楽しみました。保育士資格を有する調理員の食育活動やクッキングなども継続して行いました。
- 人権指導、保健指導、食育指導を年間計画に基づいて月1回実施しました。人権指導は3歳児に伝わりにくいことからソーシャルスキルカードを用いて指導を行いました。

⑥家庭との連携

- クラス懇談会（年2回）・個人懇談会（年1回）・就学前個人懇談会（年1回）・保育参加（年1回）・家庭訪問（新入園児のみ）を実施しました。
- 保護者との連携は、おたよりや日々の送迎時の保護者対応、連絡ノートを活用して行いました。3月よりアプリでの登降園管理や電子連絡ノートの活用も始めました。
- 保育のドキュメンテーションを継続して保護者に情報を伝えています。8月に、ドキュメンテーションでより子どもの興味関心が伝わるように様式の変更を行いました。
- 生活習慣の基本となる「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを園便りやクラス懇談会で家庭に伝えました。しかし、大人の時間に合わせて生活する子どもが多く、登園時に活動に参加しにくい子どももいました。
- 連絡アプリを利用し、様々な連絡（災害時、感染症について、行事についてなど）を行うようにしました。価格高騰の波を受け今まで紙媒体での配布であったものはデータでの送付に切り替えました。
- 新入園児を対象に入園前にプレ保育を実施し、保育園の生活を親子で体験し、理解していただき安心して入園を迎えられるようにしました。離乳食や給食の提供も行っています。
- 転園や卒園児とその保護者には、園長、主任が相談窓口となり、継続して支援できるようにしました。卒園児に向けた交流行事も年3回行うことで、卒園後のフォローも行いました。

⑦人材育成

- 第三者評価の受審に向けた勉強会を行いました。評価項目に沿って園の自己評価を行う中で、職員の理解度には差異も見られましたが、園の保育について理解を深める機会となりました。
- 経験の浅い職員をリーダーに起用しているため、現場での指導は主に園長や主任が行いました。保育の意味合いなどを押えながら、マニュアルを基に保育の方法や手順を伝えました。
- 研修計画に基づき、キャリアアップ研修の受講や保育会などの外部研修を受講しました。また、重大事故対応の心肺蘇生法や感染症対応などの園内研修も実施しました。
- 年度末には体制変更に伴う引き継ぎを実施しました。

⑧地域の実態に対応した事業

- 子育て支援について
公民館の利用制限を受け、活動を縮小する期間もありましたが、0歳児の子育て家庭を対象とした赤ちゃん広場やベビーマッサージ、親子体操などの育児講座の開催を行いました。給食試食会は実施できませんでした。
- 小学校との連携・接続について
小学校との交流行事は実施できなかったものの、保幼少の連絡協議会に参加し、保育所保育児童要録をもって小学校への引き継ぎを行いました。
- 生石地区のまちづくり協議会の広報部と福祉部に参加し、保育園の有する機能について地域に理解していただけるよう取り組みました。園の活動を地域全戸配布の広報誌に掲載してもらったり、こども食堂の準備における話し合いに参加したりしました。
- 高齢者施設との交流行事は今年度も実施できませんでした。
- 地元にある自然や社会を知る機会を大切にし、感染症対策には十分配慮した上で、地域の方とも交流を深めながら社会体験活動を行いました。(空港フェスタの参加、埴生山登山、年長児による公民館清掃)

⑨苦情解決

- 意見や要望に対し、全職員に周知し、概ね24時間以内に保護者に改善内容を伝え、回答書の掲示を行いました。また、保護者の意向を委託アンケートや第三者評価のアンケート調査などで聞き取る機会を設けました。

⑩リスクマネジメント

- 子どものアレルギーの状態に応じ、個別的な配慮をして安全に食事が食べられるようにしました。食事の提供は医師の指示書に基づき、専用の食器やトレーの使用などをして誤食を防ぐよう対応をしました。
- 安全係を中心に危機管理マニュアルや安全計画の見直しをしました。
また、災害時の備蓄品を0歳児に対応できる物品を追加購入しました。また、期限の近づいているものは給食提供の際に災害食体験として使用し、入替えをしました。

- 様々な災害を想定（地震、火災、風水害等）しての訓練・消火を月に1回実施しました。消防署と連携した総合避難訓練も実施しています。
- 災害時の避難場所は玄関掲示板に掲示しました。なお、連絡方法や対策については、新規面接時やクラス懇談会において文書で保護者に伝えています。
- 保健衛生マニュアルや感染症マニュアルを基に感染症流行期に対応しました。園内でインフルエンザ感染症が流行した際には、松山市役所保育幼稚園課や保健所と連携を図り対応を行いました。
- ヒヤリハットは以前より収集することはできるようになったものの分析までに至らないなど課題が残りしました。
- 松山市のチェックリストに基づき危険箇所を毎日の安全点検と毎月1回点検を実施しています。また、松山市の施設点検マニュアルに基づく施設点検を年3回行いました。業者による遊具点検は年1回実施しました。

⑪休日保育

- 休日保育の年間延べ利用人数は320名で、前年度より50名減少しました。

⑫その他

- Wi-Fi環境の整備やタブレット端末4台の追加購入などICT化に向けた環境整備を行いました。
- ホームページを8月に変更しました。